

司。ノトノコクシ 能登の國司。

コクシゲンザイシヤ 國史見在社 醍醐天皇延長五年延喜式撰進以前に存した神社でありながら、その神名帳の登録に漏れたものを世に式外社と稱する。しかし、廣義に言へばその以後に創建せられた神社も式外であるから、式外社にして六國史の記事に見えるものを國史見在社といふこともある。加賀では治田若御子神社・山代大塚神社・白鳥神社・畔分振神社・垂比咩神社、能登では高倉彦神社、及びもと越中で現に加賀の地域になつた手向神社は國史見在社である。

コクシシヨウヒモンドウ 國事昌披問答

別名老若問答集。外に飛耳稗録といふ書があつて、記載の項目が大同少異だから、その初稿か又は私に加除した寫本であらう。内容は加賀藩の種々の典故に關して問答體に記したもので、寶曆三年の著。跋文には凶巷軒蒙鳩子書とある。森田平次は、天明三年の飛鳥川記に、御醫方役料二人扶持・銀三枚丹羽四郎左衛門とあるのが蒙鳩子であるとしてゐるが、丹羽忠兵衛の撰と書いたものもある。四郎左衛門と忠兵衛と同人であらうか。

コクシヨイブン 國初遺文 ↓カハノコクシヨイブン 加藩國初遺文。

コクシヨウジ 國松寺 一に國聖寺又は國昌寺に作る。越登賀三州志に、萬治元年十月十二日前田利常の能美郡小松で薨じた時、金澤の寶圓寺小松に來り、同地國松寺の和尚と共に誦經し、次いで古市左近胤重は國松寺で殉死したとある。今小松にこの寺號がない。コクシヨウジ 極生寺 鳳至郡宇留地に在つて、眞宗東派に屬する。

コクソウシヤ 國造社 石川郡泉に在る。初めは井手神社とも虚空蔵社とも呼んだのを、明治五年十一月國造神社とした。石川訪古遊記に、蓋加賀國造の神靈を祀つたもので、晩近依託して虚空蔵とするものは恐くは非なりとしてゐる。しかし、その非なりとするもの、却つて謬つて居るのであらう。

コクソウテン 國造田 政事要略所載延喜十四年八月八日の官符に、『國造田四百一町五段。越前國六町。加賀國十一町。能登國六町。越中國十二町云々。』とある。國造田は國造の家系を傳へたものゝ受くる職田であるから、延喜時代にも尙加賀・能登にさうした者が存続して居たのである。

コクソウヤマ 國造山 鹿島郡東三階の部落南方の山。高さ六三米。

コクソマツリ 粉糞祭 藩政の時、十一月十三日塗師職のものは粉糞祭を營んだ。粉糞は、漆器器材の合はせ目などを密着する材料である。

コクタイジ 國泰寺 金澤泉寺町にあつて、摩頂山と號し、臨濟宗法燈派の本山越中射水郡太田村の國泰寺の別院と見るべきものである。前田利家の入部以後公儀町に建立して、本寺より傘帶し、元和年中播磨和尚の時泉野に替地を賜はつて堂宇を再興した。境内に松源庵があつて、慶安三年宗眞が建立したので今はない。

コクタニニ古九谷 ↓クタニヤキ 九谷燒。コクチセト 小口瀬戸 鹿島郡鷺浦と能登島野崎との間以西の海峡で、七尾南灣と外海とを連絡せしめる。

コクチノワタシ 小口の渡 鹿島郡三室の

散村福浦といふ所から、能登島の日出、島村に至る渡口をいふ。

コクテン 御供田 石川郡米丸郷に屬する部落。三宮古記に『米丸保日御供田』と見え、白山由來書には、『鳥羽院法皇長承二年十月朔日當國以米丸保日御寄進日御供新所也。』とあるから、白山宮の御供田のあつた地である。白山宮莊嚴講中記録嘉祿二年九月の條に、社官等御供田の訴訟によつて白山の神輿を振出したことのあるのも、この地に關することであらう。元祿十四年の郷村名義抄にも、往古白山の御供米を貢獻したから村名になつたと記してゐる。又加越能龜跡緒には玉鉾村の宮に御供を備へたのであるとするが、三州名義誌にはそれを誤であるとしてゐる。又寶永誌に、この村領の館といふ所に土屋大學助・準人二代の館跡があると記してある。

コクテイシヨウ 國典異證 一冊。奥村榮實著。文政元年の自序がある。古事記にいふ天地の成立を、周易の卦爻に照らして、その理の合一する所以を説いたもの。著者は又本居宣長の古事記傳の釋義の誤を論じ、皇學者が偏固の見識を以て、徒らに漢籍を排する弊あるを指摘してゐる。

コクテンシラヤマジンジャ 御供田白山神社 石川郡御供田に鎮座した。式内等舊社記に、『御供田白山神社。米丸郷御供田村鎮座。往古以來白山比咩神社之御供田也。故勸請云々。』と見える。今御供田の神社は神田神社と稱してゐる。

コクテンノサプロエモン 御供田の三郎右衛門 石川郡の人。慶長九年に十村を命ぜられ、正保二年子勘四郎その後を襲いだ。↓ツ

チヤカンシロウ 土屋勘四郎。コクフ 國府 ↓カガノコクフ 加賀の國府。ノトノコクフ 能登の國府。コクフ 國府 能美郡德橋郷に屬する部落。明治八年十月古濱と合して古府とした。コクフ 國分 鹿島郡矢田郷に屬する部落。元祿の郷村名義抄にコクブン又はコクボと訓じてある。國分寺の所在であつたから名を得る。

コクフシヨウケイ 國體捷徑 一帖。文化元年富田景周著。歴世藩侯の諱・官位・諡號・誕辰・忌辰・小君・生母公子・廟所等を一紙に記載して携帶に便にしたものである。又前著が轉寫を経て大に誤謬あるに至つたから、文政八年景周が更に自筆して家藏としたものもある。

コクフシンスケ 國府新助 前田利長に仕へて千石を受けた。子孫世々相繼ぐ。コクフノリカツ 國府乘勝 通稱佐兵衛。與左衛門乘則の養子。初め二百石を受け、組外に列し御武具奉行となり、天明五年五十石を加へ、祐泉院附御用人・壽光院附御用人・同御附物頭並に歷任し、文政六年歿した。

コクブンジ 國分寺 (一)加賀の國分寺 天平十三年聖武天皇國分寺造營發願の當時、加賀は尙越前に屬してゐたが、弘仁十四年その獨立するに及んで國分寺を定置する必要に迫られた。しかも新置の國として直に之を造營することは困難であつたから、近江・和泉諸國の先例に則り、既存の定額寺を國分寺に代用する便法を採つた。仁明天皇承和八年紀に、『九月十日加賀國興寺を以て國分寺となし、和泉の國分寺に准じて只講師一員僧十口

とを連絡せしめる。コクチノワタシ 小口の渡 鹿島郡三室の